

**令和元年度（平成 31 年度）**

**学校自己評価報告書**

令和 2 年 5 月

**久留米大学医学部附属  
臨床検査専門学校**

## 平成 31、令和元年度学校自己評価について

久留米大学医学部附属臨床検査専門学校は、創立 52 年の歴史と伝統を持つ学校です。医学部附属の特長を活かし、時代のニーズに合った講義の充実と実践的な技術養成のため実習重視の教育によって、医療人そして社会人として必要な豊かな人間性を育み、医療の現場の最前線で活躍できる臨床検査技師の育成を目指して参りました。

本校ではその取り組みの中で、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に評価項目を見直し、現状と課題の把握及び改善策の検討・実施を行っています。

評価は、学生による教員評価アンケート、新卒者の臨床検査技師国家試験の合否結果と就職状況、臨地実習指導者会議及び保護者の会総会での結果なども参考にして行っています。今後も、この学校自己評価の結果を生かし、更なる教育の質の向上を図りたいと考えています。

### 1. 対象期間

平成 31 年 4 月 1 日 ～ 令和 2 年 3 月 31 日

### 2. 実施方法

- (1) 「久留米大学医学部附属臨床検査専門学校教務会」の学校長、教務主任、専任教員及び事務職員によって評価を行う。
- (2) 委員構成  
議 長：校長  
委 員：臨床検査専門学校 教務主任、専任教員及び事務職員  
評 価：「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に行う。
- (3) 評価は、年一回 5 月に行う。
- (4) 評価結果の公開は、報告書をホームページに掲載することによって行う。

### 3. 自己評価の項目

自己評価は、以下の 10 項目を実施する。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入れ募集

- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

#### 4. 評価項目に対する評価

評価は、以下の4～1の点数で評価記載。

**4:適切、3:ほぼ適切、2:やや不適切、1:不適切**

#### 5. 自己評価結果（平成31年、令和元年度）

##### (1) 教育理念・目標

##### ① 評価

| 評価項目 |                            | 評価<br>(4～1) |
|------|----------------------------|-------------|
| a    | 学校の理念・目的・育成人材像は明確であるか      | 4           |
| b    | 学校における職業教育の特色は何か           | 4           |
| c    | 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 4           |
| d    | 教育目標、育成人材像は、業界のニーズを踏まえているか | 3           |

##### ② 状況及び課題と改善策

- a. 学校の教育の理念・目的・育成人材像については明確に定められ、シラバス、学校・入試案内パンフレット、ホームページ上に公開している。
- b. 教育目標には「時代のニーズに合った講義の充実」、「実践的な技術養成のため実習重視」を挙げている。医学部附属である特徴を生かして医学部および大学病院の講師陣約130名による指導体制の下、実習時間を十分に確保（実習29単位、臨地実習11単位）することにより、3年間の修業年限で卒業後に即戦力となり得る人材の育成を図っているのが特色である。
- c. 近年、少子高齢化社会における臨床検査技師が果たす役割の拡大、ゲノム医療やビッグデータ解析を含めた医療技術の進歩への対応など、臨床検査技師に対する社会のニーズは大きく変化する過渡期にある。次世代型臨床検査技師の育成へ対応するために、本校の母体である久留米大学は「臨床検査専門学校在り方委員会」を立ち上げ、平成31年3月に将来構想についての提言書を作成した。提言に基づき、構想実現のための方略を検討している。
- d. 教育目標、育成人材像については、医療業界のニーズを踏まえて作成されている。学校は、久留米大学医学部と大学病院、学外の臨地実習先と密に関わり、日本臨床検査学教育協議会に所属して最新の臨床検査技師養成の動向を入手するなどにより、現場のニーズを感知できるような体制づくりをはかっている。



会、学会発表などの学生の活動実績もホームページや学校・入試案内パンフレットに挙げている。

### (3) 教育活動

#### ① 評価

| 評価項目 |  | 評価<br>(4~1) |
|------|--|-------------|
| a    | 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか                          | 3           |
| b    | 教育理念、育成人材像やニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 3           |
| c    | カリキュラムは体系的に編成されているか                                      | 3           |
| d    | キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか       | 3           |
| e    | 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか                              | 2           |
| f    | 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか                           | 4           |
| g    | 職員の能力開発のための研修等が行われているか                                   | 3           |

#### ② 状況及び課題と改善策

- a. 教育課程の編成・実施方針等は、教育理念等に基づき策定されている。
- b. 育成する人材像やニーズを踏まえた臨床検査科としての教育到達レベル及び学習時間の確保については、シラバス、パンフレット、ホームページなどに明示されている。本校では独自の教育目標を達成するために、臨床検査技師国家試験受験資格に必要な単位数（95単位、うち臨地実習7単位）を大きく上回る（118単位、うち臨地実習11単位）カリキュラムを設定している。3年間で履修する学生にとって負荷は大きいと思われるが、講師陣、専任教員による手厚い指導と支援が学生の取組みを後押ししている。本校カリキュラムの履修の成果は、全国および九州の中でも高い国家試験合格率に反映されていると思われる。
- c. カリキュラムは、教養を含む基礎分野、専門基礎分野、専門分野が体系的に履修できることをねらって編成され、シラバスに明示している。カリキュラム体系図としても可視化し、ホームページ上に示している。
- d. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムが編成され実施されている。近年、社会・医療のニーズとして注目されているチーム医療へ参画するための教育としては、接遇研修や臨地実習にて機会を与えているが、今後の課題としては、他にも多職種連携教育の機会を設けることが挙げられる。  
教育方法の工夫としては、学内講師により、文部科学省が推進するアクティブラーニングの手法を取り入れた講義（協同学習）が一部で始められている。協同学習を導入した科目において、本校学生の積極的な学修活動を促し下位成績者を減らす効果が認められた。今後も、学生の主体的な学びを促進させるような取組みを増やしていくことが望まれる。

専任教員は、日本臨床検査教育学会に所属し、学会参加を通じて教育における課題や他施設で実施されている新たな手法に関する情報を得ている。

- e. 臨地実習終了後に臨地実習指導者会議を行うことにより、臨地実習先の各病院から、その年派遣した学生に関する講評、および本校での学生教育の在り方についての評価と助言をいただいている。

学校自己評価に対する外部関係者の評価については、令和元年10月1日に本校における学校評価規程を施行し、令和2年度から校長、および外部関係者から構成される学校評価委員会を毎年開催することと定めた（規程第1-2号 第3条）。

- f. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に定められ、シラバス、学生と保護者に配付される「学生生活」に明記し、ホームページ上にも公開している。

- g. 本校が主催する能力開発研修会（FD、SD）は開催されていないが、医学部教員へのFD、および大学職員へのSDは数回参加している。教員、事務職員ともに、本学医学部および大学病院の教員、事務職員と密に連携を取りながら学校運営、教育に対応することにより、医学部附属施設として新しい手法や視点を取り入れている。

#### (4) 学修成果

##### ① 評価

| 評価項目 |                  | 評価<br>(4~1) |
|------|------------------|-------------|
| a    | 資格取得率の向上が図られているか | 4           |
| b    | 就職率の向上が図られているか   | 4           |

##### ② 状況及び課題と改善策

- a. 令和元年度の臨床検査技師の国家試験合格率（新卒者）は94.3%であり、不合格が2名であった。しかし、全国平均の83.1%を大きく上回っていた。

- b. 就職率の向上については、国家試験結果に負うところが大きいものの、キャリア教育については接遇研修、模擬面接指導、学校での企業説明会が随時行われている。

(5) 学生支援

① 評価

| 評価項目 |                         | 評価<br>(4~1) |
|------|-------------------------|-------------|
| a    | 進路・就職に関する支援体制は整備されているか  | 3           |
| b    | 学生相談に関する体制は整備されているか     | 4           |
| c    | 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 3           |
| d    | 学生の健康管理を担う組織体制はあるか      | 4           |
| e    | 保護者と適切に連携しているか          | 4           |
| f    | 卒業生への支援体制はあるか           | 3           |

② 状況及び課題と改善策

- a. 進路・就職に関する支援体制は整備され、接遇研修や面接指導なども適時実施している。
- b. 学生相談については、保健管理センターに学生相談室が設置され、各曜日に精神科医や臨床心理士が相談に応じる体制が整備されている。
- c. 日本学生支援機構奨学金の利用は可能である。令和元年度より文部科学省による「高等教育の修学支援新制度（高等教育無償化）」の対象機関に認定されている。
- d. 本校が設置されている本学旭町キャンパスには保健管理センターがあり各学生のメンタル面を含めた健康管理が行われている。必要に応じて保健管理センターと各学年担任が連携し、各学生のフォローを行っている。
- e. 保護者の会総会、年2回の保護者の会役員会を開催して適切に連携が行われ、学生の教育、施設運営、その他必要と認めた諸活動における援助が得られている。さらに、保護者の会総会での保護者との面談、成績不審者に対しては定期試験毎の保護者との面談を実施している。
- f. 同窓会と協力し、ホームページ等を利用した卒業生への情報提供を行っている。国家試験不合格の既卒者への学習および就職支援を専任教員が行っている。

(6) 教育環境

① 評価

| 評価項目 |                   | 評価<br>(4~1) |
|------|-------------------|-------------|
| a    | 施設・設備は、整備されているか   | 3           |
| b    | 防災に対する体制は整備されているか | 3           |

② 状況及び課題と改善策

- a. 校舎は老朽化してきているものの、必要に応じて階段や廊下の床タイルの貼

替などの修理を行っている。また、AED や消防設備・救助袋などの学生の安全に配慮した設備更新なども行われている。

- b. 防災体制も整備されている。また、自然災害があった場合の学生の安否確認の体制（緊急連絡用メーリングリスト、緊急連絡先名簿の作成等）についても整備されている。

(7) 学生の受入れ募集

① 評価

| 評価項目 |                             | 評価<br>(4~1) |
|------|-----------------------------|-------------|
| a    | 学生募集活動は、適正に行われているか          | 4           |
| b    | 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 4           |
| c    | 学納金は妥当なものとなっているか            | 4           |

② 状況及び課題と改善策

- a. 学生募集活動は、適正に行われている。

学校・入試案内パンフレットおよびホームページを作成して希望時に閲覧できる情報を提供している。平成 30 年度から進学情報サイト「スタディサプリ進路」に登録したことにより、資料請求数が過去 4 年平均 183 件/年だったのが 525 件/年と飛躍的に増加した。対面での学校紹介の機会としては、入試説明会、オープンキャンパス（8 月）に加えて令和元年度から学園祭（11 月）にてミニオープンキャンパスを実施した。

- b. 学生募集活動は、新生の入学動向によって適正に行われていることが確認でき、パンフレット、ホームページ上で教育の成果も正確に伝えられている。

- c. 消費税の 10%への引き上げおよび施設の老朽化に対応するため、平成 31 年度の入学生から施設設備維持費を 5 万円増額したが、引き上げ後の学納金額は近隣の臨床検査技師養成校と比較しても、入学生に配慮されたものと思われる。

(8) 財務

① 評価

| 評価項目 |                          | 評価<br>(4~1) |
|------|--------------------------|-------------|
| a    | 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4           |
| b    | 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4           |
| c    | 財務情報公開の体制整備はできているか       | 4           |

② 状況及び課題と改善策

- a. b. 中長期的な財務基盤は安定しており、充分ではないものの優先順位を考慮し有効性かつ妥当性を考慮した予算・収支計画が行われている。

- c. 財務情報公開の体制整備はされており Web にも公開されている。

(9) 法令等の遵守

① 評価

| 評価項目 |                            | 評価<br>(4~1) |
|------|----------------------------|-------------|
| a    | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 3           |
| b    | 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか      | 2           |

② 状況及び課題と改善策

- a. 個人情報の保護の対策はとられており、第三者への情報提供についても上長の決裁を仰いだり、授受記録を残すなどの配慮がされている。
- b. これまで自己評価の実施と問題点の改善、および情報公開の体制整備は不十分であった。これを改善するため令和元年10月1日に本校における学校評価規程を施行し、平成30年度から年度毎に学校自己評価報告書をホームページ上に公開することとした。令和2年度から校長、および外部関係者から構成される学校評価委員会を設置し、当該年度(平成31年、令和元年度)分から、本校教職員が作成した学校自己評価報告書案を翌年(令和2年6月)に学校評価委員会が検討し、公正な自己評価の実施と改善すべき問題点の抽出を行い公表している。これに伴い、問題点の改善についての評価は、次年度である令和3年から実施される予定である。

(10) 社会貢献・地域貢献

① 評価

| 評価項目 |                                 | 評価<br>(4~1) |
|------|---------------------------------|-------------|
| a    | 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 3           |
| b    | 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか          | 3           |

② 状況及び課題と改善策

- a. 令和元年11月「第16回エコール会」(日臨技総合情報システム：JAMTIS 研修会 No. 190023667)に本校施設を提供。本校学生も参加させた。
- b. 学生の社会貢献・地域貢献活動の奨励、支援に関して、当該年度には、以下の実績がある。
- 平成31年4月7日「**子宮頸がん検診啓発の街頭活動**」(ゆめタウン久留米、主催 福岡県細胞検査士会)で市民へのチラシ配布・呼びかけ等のボランティア活動を実施。
  - 令和元年7月13日「**2019年夏休み『顕微鏡体験ワークショップ』**」(久留米大学医学部基礎一号館、本学医学部先端イメージング研究センター太田啓介教授)の補助。
  - 令和元年12月14日「**青少年のためのサイエンスモール in くるめ**」(福岡県青少年科学館、本学医学部肉眼解剖学講座 嵯峨堅准教授)の補助。